

イマドキ

愛犬をまもるために知っておきたい

10月号の
テーマ

犬の医療事情

いぬのきもち 編集室作成

今月のテーマ 誤飲

若齢の犬が誤飲しやすい傾向に。
犬が飲みこめるものは置かないように

犬は飲みこめる大きさのものであれば何でも誤飲する危険性がありますが、とくに誤飲しやすいものは、食べ物以外のものでは、飼い主さんのおいづいたものを好む傾向があるようです。たとえば、タオル、靴下、軍手、下着、髪飾り、化粧品のパフなどです。誤飲しやすい犬の特徴という、1〜2才以下の活発な犬が多いようです。若齢の犬は、内臓が悪くなって調子を崩すことが少ないの

で、若齢の犬が頻繁に嘔吐する場合は、誤飲の可能性を考えなければいけません。とはいえ、3才以上の犬でも誤飲する可能性があるので常に注意が必要です。誤飲は、飼い主さんが気づいていないケースも少なくなく、犬を留守番させるときも含め、あらゆる状況で誤飲の危険性があります。犬が飲みこみそうなものは、犬が口にしないよう片づけ、犬の行動範囲から取り除いて予防しましょう。



誤飲についての

Q&A

犬が誤飲したかどうか分からないこともあります。飼い主さんの対処についての疑問にお答えします。



イラスト / mollydomon

Q テーブルの上にあるはずの薬がありません。愛犬が誤飲したかもしれないときもすぐに動物病院へ連絡すべきでしょうか？

A 誤飲したと疑われるものと同じものがあれば動物病院へ持っていきましょう
誤飲したかどうかははっきりとわからない場合も、誤飲したと思われるものと同じもの（この場合は、薬）が手元があれば、それを動物病院へ持っていきましょう。診断や治療に役立つからです。誤飲したものによっては緊急な処置が必要なことも。できるだけ早めの受診を。

Q 愛犬が誤飲したのですが、元気で食欲もあります。すぐに動物病院へ行かなくても大丈夫でしょうか？

A 誤飲した場合は、食事や水を与えないこと
現状は無症状でも今後、重篤なトラブルを起こす可能性があるため、できるだけ早く動物病院へ相談を。誤飲がわかっている場合は、愛犬に食事と水は与えないこと。胃内が食事で満たされてしまうと、検査での異物の確認や内視鏡などでの摘出が困難になるからです。

Q 今まさに愛犬が異物を口に入れ、誤飲しそうに!? こんなときはどうすればいいですか？

A 慌てず、騒がず、ほかのおもちゃと交換を
もしも愛犬が危険なものを口にしたとき、飼い主さんはまず「騒がない」ことが肝心。あわてて取り返そうとすると、逆に犬は抵抗して飲みこむことがあるからです。飲みこめない安全なおもちゃなどを差し出し、興味をひかせ、異物を自然と離させましょう。

こちらの特集は
2018年9月号
いぬのきもちに掲載中!
続きはぜひ本誌内で
ご覧ください！



アニコム損保
ご契約者がマイページから
定期購読をお申し込みすると

2号(2ヶ月分)
無料!!!